



## 論文誌編集委員会

### ヒューマンインタフェース学会

#### 論文誌編集委員会委員長（担当理事） 石井 裕剛

学会の論文誌の役割の1つは、会員の研究成果を公知し、それによって学術文化の向上発展に資することです。HI学会は、ヒューマンインタフェースに関する学会ですので、論文誌も当然、ヒューマンインタフェースに関する研究を扱います。しかし、ヒューマンインタフェースに関する研究を扱う学会は、HI学会以外にもありますし、海外でもヒューマンインタフェースに関する研究を扱う学術誌が発刊されています。このような状況の中で、研究者はHI学会論文誌の何に魅力を感じて論文を投稿してくれるのでしょうか。このことをもう一度問い直し、魅力的な論文誌とするための改革を進めていく必要があると感じています。

論文誌の読者の立場からすると、魅力的な論文誌とは、仕事や研究の参考になる素晴らしい研究が沢山載っている論文誌だと思います。それでは、投稿者の立場からすると、魅力的な論文誌とは、どのような論文誌でしょうか。

論文を投稿する理由は幾つかあると思いますが、まずは、研究者として、多くの時間や経費をかけて得た研究成果を世に聞きたいということがあると思います。自分たちが手間暇かけて得た研究成果を多くの人に知ってもらい、世の中に役立ててもらったり、学術的にも発展する基礎となってもらいたい。このような立場の投稿者は、多くの人に読んでもらえる論文誌が魅力的な論文誌になります。一方、業績の一つとすることを目指して論文を投稿する人も多くいると思います。教育的な観点から修士の学生や部下に論文を投稿させる場合もあると思いますが、博士の学位を取得するために論文を投稿する人もいます。企業の研究者や大学の教員も、次のキャリアのために論文を投稿します。このような立場の投稿者にとっては、評価が高い論文誌が魅力的な論文誌になりますが、それ以外にも、投稿から採否決定の通知を受け取るまでの期間が短い論文誌が魅力的な論文誌になります。

この他にも論文誌の魅力を決める要素は幾つかあると思いますが、まずは、これら2つの要素、つまり、読者数の増加と査読期間の短縮の為の改革を進めていきたいと思っています。

まず、論文誌の読者数を増やすために、論文をJ-Stage上で公開するための作業を進めています。現在、HI学会の論文誌は、学会のホームページ上で会員のみが読めるようになっていますが、これをJ-Stage上で会員外でも読めるようにします。諸事情から当面は、最新号から過去1年分は会員のみが読めるようにする制限を掛けますが、それよりも古い論文は、誰でも自由に読むことができるようにします（この最新1年間分は会員外は読むことができないという制限は、できるだけ近いうちに撤廃したいと思っています）。HI学会の論文誌に採録されれば、自動的にその論文が大規模な電子ジャーナルプラットフォーム上で公開されるようになり、検索エンジンにもヒットしやすくなりますので、読者数を大幅に増やすことができると期待できます。

一方、査読期間の短縮に関しては、長年、論文誌編集委員会内でも課題として認識されながらも、有効な対策を打ち出せない状況が続いていました。HI学会の論文誌編集委員会の委員や査読者は完全なボランティアであり、無償で務めていただいています。本業がある中で、論文の処理に集中して時間を費やしていただくことを強いることは難しいため、各種処理ステップの締め切りを短く設定するなどではなく、より効率的に処理を進められるように環境を整備することにより、投稿から採否決定の通知送付までの期間を短くすることを考えています。現在、HI学会の論文誌編集委員会の投稿論文の処理作業は、基本は手作業のメールベースであり、査読者の選定、査読の依頼、結果の報告、査読が遅れている時の催促等は、全て事務局や担当編集委員が手作業で行っており、決して効率が良いとは言えません。そのため、多くの作業を自動化できる論文査読システムを導入し、また、査読候補者データベースを整備して適切な査読者を探す作業の負担を軽減するなど、作業の効率化を図りたいと考えています。また、委員の一人あたりの負担を減らすべく、委員の拡充も進めており、2017年は総勢41名の体制で活動する予定です。

会員の皆様からも、是非、HI学会論文誌を魅力的にするためのアイデアや御意見をお寄せください。